

2. SDGs 目標別ポイント解説



目標7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに

(1) 地球温暖化の原因となる化石燃料

18世紀の産業革命以降、人口増加や産業発展でエネルギーの消費は急速に増えてきました。今後もアジアやアフリカの経済成長に合わせて、エネルギー消費がますます増えると考えられています。

現在のエネルギーは、石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を元にしたエネルギーが中心です。しかし、化石燃料は、エネルギーを作り出すときに二酸化炭素が発生し、それが地球温暖化の原因の一つになっている事を忘れてはいけません。このまま化石エネルギーの消費量が増え続けると、地球温暖化や気候変動がますます深刻になるといわれています。

(2) 再生可能エネルギーの推進

再生可能エネルギーとは、太陽光、水力、風力、バイオマス、地熱などの自然の力から生み出すエネルギーです。使用しても資源再生することが可能なので、石油などの化石燃料のように、資源がなくなる心配がありません。また、二酸化炭素を出すこともなく、環境にもやさしい安全でクリーンなエネルギーです

再生可能エネルギーは、未来のエネルギーとして、世界がその普及に力を入れてはじめています。世界の最終消費エネルギーの約17.9%が再生可能エネルギーで、先進国を中心に積極的に導入されています。

(3) 電気を使えない人は7.9億人も存在

電気やガスなどわたしたちの生活に欠かせないエネルギーについて、日本で暮らしている中で心配する機会はあまりありません。しかし、世界ではいまだに約7.9億人が電気を利用できずにいるといわれています。電気が使えない地域では、薪や炭を燃やして料理をしたり暖房に使ったりしており、煙で汚れた空気で健康を損なうこともあります。

また発展途上国では、夜に明かりを使うことができずに仕事や勉強ができない人々が多く外灯の灯で勉強をする子どももいます。

(4) わたしたちにできることを考えよう

再生可能エネルギーの各国事情を調べることで、未来のエネルギーについて考えてみることも、わたしたちにできることのひとつです。

再生可能エネルギーの発電量が多いのは、中国とアメリカで、この2つの国は突出しています。また、発電量に占める再生可能エネルギーの割合（一人当たり）が高いのは、デンマークやドイツなどヨーロッパの国々です。特に風力発電の盛んなデンマークは、自国の発電量の4割以上が風力発電です。他の国の再生エネルギーの導入を調べることで、これからのわたしたちのエネルギーのあり方のヒントがみつかるかもしれません。

また、日本は、エネルギー資源の大半を海外からの輸入に頼っており、世界第5位のエネルギー消費国でありながら、エネルギー自給率はわずか11.8%です。これは先進国の中でも極めて低く、エネルギー資源のほとんどを海外からの輸入に頼っている状況です。日頃から節電を心がけ、エネルギーを上手に使う工夫をすることも、わたしたちにできることのひとつです。

<執筆者> 株式会社吉岡経営センター

コンサルティング部 課長 町田 一也

<プロフィール> 主に、福祉施設、介護事業所に対する人事制度の提案や研修企画、講師などを行う。